20151205

第 10 回　日本胸部外科女性医師の会

（10th meeting of Women in Thoracic Surgery in Japan）

－活動報告書（第一版）－

代表世話人

齋藤　綾（東邦大学医療センター佐倉病院）

世話人

冨澤　康子（東京女子医科大学）

林田　恭子（草津総合病院）

はじめに

2006 年に第 1 回日本胸部外科女性医師の会を開催してから今年で 10 年目という一つの節目を迎えることが出来ました。この 10 年間を通してみた時に、女性外科医の処遇も含み外科医の労働環境および処遇について問題提議されるようになり医療界各専門分野において活発に議論が繰り広げられるようになってきたように見受けられます。絶対数の少ない胸部外科領域における女性医師に対する職場環境作りや工夫に関する具体的な試み・経験については限りがあります。また新たな多職種によるチーム形成・人員配置システムが構築・導入されようとしています。新たなシステムは、時には制限された状況で外科医としてのキャリアを継続使用とする医師たちにおいては競合する可能性も否めないと考えられます。

今年も日本胸部外科学会および日本医師会の共催のもとで、第 68 回日本胸部外科学会定期学術集会に併設し第 10 回集会を開催することができました。今回の集会では、防衛医科大学　元教授　前原正明先生より強雨外科領域における NP/PA 制度導入についてご講演を頂き、更に胸部外科（心臓外科・呼吸器外科）において第一線で活躍されている女性医師 4 名よりキャリア形成に関するご発表いただき、今後の方向性について議論することを目的といたしました。

第10回
日本胸部外科女性医師の会
Women in Thoracic Surgery

開催のご案内

皆様方のご支援ご協力を賜り、「日本胸部外科女性医師の会」は第68回 日本胸部外科学会定期学術集会（会長：大北　裕先生）の期間中に開催いたします。朝食会形式で行います。
性別・職種を問わず、歓迎いたします。事前申し込みは不要です。ぜひ皆様、ご参加ください。
世話人一同心よりお待ち申し上げます。

日時：2015年10月19日　7:30～9:00（7:20 開場）
会場：神戸ポートピアホテル　南館　B1F　ルビー
参加費：1,000円

講演

「胸部外科領域における NP、PA制度導入について」

前原 正明 先生（元防衛医科大学外科学講座外科第2教授）

討議

「胸部外科領域における女性医師の 現在・未来とシステムの共存」

広島市立安佐市民病院 心臓血管外科　荒川 三和 先生
東京女子医科大学　心臓血管外科　立石 実　先生
埼玉県済生会栗橋病院 呼吸器外科　松本 卓子 先生
京都府立医科大学　心臓血管外科　山崎 祥子 先生

【主催】日本胸部外科女性医師の会
【共催】日本胸部外科学会　日本医師会

代表世話人：齋藤　綾（東邦大学医療センター佐倉病院）
世話人：冨澤　康子（東京女子医科大学）
林田　恭子（草津総合病院）

（デザイン：林田　恭子）

第 10 回日本胸部外科女性医師の会　（開催概要）

日時：　10 月 19 日（月）　7:30~9:00

会場：　神戸ポートピアホテル　南館 B1F ルビー

講師：　前原正明先生

（元防衛医科大学外科学講座外科第 2　教授）

講演タイトル：胸部外科領域における NP、PA 制度導入について

討議：　胸部外科領域における女性医師の現在・未来とシステムの共存

発表者：荒川　三和先生（広島市立安佐市民病院　心臓血管外科）

立石　実　先生（東京女子医科大学　心臓血管外科）

松本　卓子先生（埼玉県済生会栗橋病院　呼吸器外）

山崎　祥子先生（京都府立医科大学　心臓血管外科）

参加者：（アイウエオ順、敬称省略）

荒川　三和	広島市立安佐市民病院	心臓血管外科
宇佐美　陽子	メディカルトリビューン	報道部
碓氷　章彦	名古屋大学	心臓外科
内海　史織	新潟大学	
浦中　康子	横浜市民病院	心臓血管外科
江石　清行	長崎大学	心臓血管外科
大北　裕	神戸大学	心臓血管外科
奥村　明之進	大阪大学	呼吸器外科
落合　由恵	JCHO 九州病院	心臓血管外科
片野　智子	愛生会山科病院	外科
清原　久貴	東邦大学医療センター大橋病院	心臓血管外科
齋藤　綾	東邦大学利用センター佐倉病院	心臓血管外科
島貫　隆夫	日本海総合病院	心臓血管外科
鈴木眞人	エドワーズライフサイエンス（株）	
立石　実	東京女子医科大学	心臓血管外科
千田　雅之	独協医科大学	呼吸器外科
千原　幸司	静岡市立静岡病院	呼吸器外科
西尾　友見	新潟大学	
林田　恭子	草津総合病院	心臓血管外科
前原　正明	蒲田リハビリ病院	リハビリ科
松本　卓子	埼玉県済生会栗橋病院	呼吸器外科
本村　昇	東邦大学利用センター佐倉病院	心臓血管外科
八木　葉子	八戸西病院	心臓血管外科
山崎　祥子	京都府立医科大学	心臓血管外科
吉野　一郎	千葉大学	呼吸器外科

（計　25 名、世話人２名を含む）

集会概要：

2015 年 10 月 19 日、第 68 回日本胸部外科学会定期学術集会会場である神戸ポートピアホテル内にて、朝食会形式で集会が開催されました。

講演会および臨床現場最前線で活躍される女性胸部外科医師 4 人の演者を迎えての討論会と主体とした進行となりました。

―講師および演者　御略歴―

前原　正明先生

前職：防衛医科大学校外科学講座 主任教授(心臓血管・呼吸器)

現職：一般社団法人巨樹の会　副理事長、蒲田リハビリテーション病院　院長

〔学歴〕

1974 年 3 月　横浜市立大学医学部　卒業、同年 6 月　医師免許取得

1989 年 9 月　医学博士取得（慶應義塾大学　第 2079 号）

〔職歴〕

1978 年 7 月　慶應義塾大学外科心臓血管外科入局　助手

1983 年 6 月　済生会宇都宮病院心臓血管外科　医長

1985 年 7 月　米国アラバマ大学胸部心臓外科留学

1988 年 7 月　英国ロンドン小児病院胸部心臓外科留学

1989 年 7 月　川崎市立川崎病院心臓血管外科　医長

2000 年 4 月　防衛医科大学校外科学第二講座　教授

2014 年 3 月　防衛医科大学校外科学講座　主任教授(心臓血管・呼吸器)退官

2014 年 4 月　一般社団法人巨樹の会　副理事長、
みどり野リハビリテーション病院　院長補佐

2015 年 8 月　蒲田リハビリテーション病院　院長

現在に至る。

荒川　三輪先生

〔学歴〕2002 年 3 月　広島大学医学部医学科卒業、
同年 4 月　医師免許取得

〔職歴〕2003 年 4 月　広島大学医学部附属病院（研修医）
2003 年 9 月　県立広島病院　胸部外科
2005 年 4 月　広島大学医学部附属病院　医員
2006 年 4 月　広島市立安佐市民病院　心臓血管外科

現在に至る。

松本　卓子先生
［職歴］1996 年 3 月　東京女子医科大学卒業
同年 東京女子医科大学呼吸器外科　入局
都立府中病院への出向などを経て、
2004 年 4 月　埼玉県済生会栗橋病院　呼吸器外科
2015 年 4 月より同院呼吸器外科部長（現職）
［役職］日本呼吸器外科学会・日本呼吸器内視鏡学会・
日本内視鏡外科学会評議員
現在に至る。

立石　実先生
［職歴］2000 年 3 月　熊本大学医学部卒業
2000 年 4 月　東京女子医科大学日本心臓血圧研究所外科　入局。
佼成病院、聖隷浜松病院、富山県立中央病院、
京都府立医科大学へ出向
2013 年 4 月　東京女子医科大学 心臓血管外科 助教として勤務。
現在に至る。

山崎　祥子先生
［職歴］2000 年　山形大学卒業、京都府立医科大学外科へ入局
2002 年　国立循環器病センターレジデント
2005 年　京都府立医科大学付属病院　心臓血管外科修練医
2006 年　京都第二赤十字病院　心臓血管外科
2008 年　京都府立医科大学付属病院　心臓血管外科専攻医
2010 年　福井循環器病院　心臓血管外科　医長
2013 年　京都府立医科大学付属病院　心臓血管外科専攻医

―以下講演内容要旨―
講演題目：「胸部外科領域における NP・PA 導入について」（前原　正明先生）
講演内容：日本版 NP/PA 制度導入の必要性は高度、専門、重症、専心、高齢、複雑化する日本医療に対応するにはもはや医師のみで担うことは不可能でありかつ弊害が生じると考えられている。そこで NP/PA の導入などの新しいチーム医療体制を確立することは国民、患者に安心、安全、希望の医療を提供することに直結すると考えられている。　わが国の外科領域においては 2007 年に日本外科学会・日本胸部外科学会などが連合して外科医の労働環境改善のための委

員会が発足し、NP/PA 制度導入を含めた外科医の処遇改善について厚労省に向けて働きかけが続けられてきた。2010 年には厚生労働省「チーム医療の推進に関する検討会」において「特定行為に係る看護師（以下，特定看護師）」の創設が承認されたが、NP/PA については引き続き検討事項として先送りされた。そこでは「従来一般的には「診療の補助」に含まれないものと理解されてきた一定の医行為（以下、「特定の医行為」という）を医師の指示を受けて実施できる新たな枠組みを構築する必要がある。」という点が」理由として挙げられた。診療の補助としての行為は即ち相対的看護行為と相対的医行為の療法を指し現在 38 項目が特定行為として了承されている。この制度の導入から期待できることとして、国民により安全な医療サービスを提供できるようになることに加え、外科医の労働環境改善も期待できるという。平成 24 年に日本外科学会が会員向けに行った労働環境に関するアンケート調査の結果では、週間就労時間が 60 時間を越す割合が非常に高く、日中の手術治療を終えた後の時間外に残務処理（病棟・書類）を行うことなども影響していることが予想された。外科志望者の減少に歯止めをかける上でもこのような新たなチーム医療体制を導入することは重要である。それに差し当たり今後の課題として考えられるのは特定行為の選定や特定看護師の研修制度の拡充、多職種との連携推進、研修修了者の看護席への登録（新たな国家資格ではない）、更には PA の創設などを見据えて活動を継続することの重要性が期待される

また、討議については 4 名の女性医師よりご自身のキャリアパス紹介、胸部外科領域における女性医師の役割・現状、キャリア継続の状況や成功に向けての重要な鍵（包括的な制度面のサポート、医局、家族親類、勤務先病院における制度やシステムの整備）についてのご発表を頂いた。更には、女性のキャリアパスには様々なパターンが考えられ、「女性」というくくりで語るのではなく個々の性格や能力・環境に合わせたキャリアパスを見極めていく必要性についてもご発言いただいた。

発表後は、会にご参加いただいた呼吸器外科・心臓血管外科領域の指導者的先生方からの多くのご意見を頂き活発な討論が繰り広げられました。

（文責：齋藤　綾）

理想的な私の一日

キャリアパスとその周辺システム

2010
2015

医療事故問題

おわりに

今年で胸部外科女性医師の会も 10 回目の節目を迎えました。過去の集会では著名な先生方に講演をいただき質疑応答を行う形式をとってまいりました。今回の試みとして、今までと同様の講演会形式に加え、少し趣向を変えて胸部外科領域第一線で活躍されている中堅層の女性医師らの自身のキャリアパスに纏わるご発表も同時にいただきました。講演会でお話いただいた NP/PA 制度については今後女性医師のみならず多くの医師が共存していくことが必要になる重要な制度と考えられました。また個々のキャリアパスに関するご発表を頂いたことで、今後の女性医師らがより良く胸部外科領域で仕事をする上でのヒントを多く頂いたように思います。今回は心臓血管外科・呼吸器外科領域の指導的立場にいらっしゃる先生方にも数多くご参加いただくことが出来、熱い議論を展開することが出来ました。今後胸部外科領域における女性医師数は増加することが予想され男女問わず充実した仕事環境を整える上で、本集会や男女共同参画などにて意見交換の場を暫くは持ち続けることが有用ではないかと考えられました。

本会の開催にあたり、大北　裕先生、日本胸部外科学会事務局の皆様、参加者の皆様をはじめご協力いただきました多くの方々へ末筆ながら心よりお礼を申し上げます。

2015 年 12 月

代表世話人　齋藤　綾